

日本航空株式会社 2025年3月期 第1四半期 決算説明会



JAPAN AIRLINES



JALアスリート社員 パリ2024オリンピック日本代表選手

左 : 北口榛花(きたぐち はるか: 陸上競技・やり投)

中央: 加納虹輝(かのう こうき: フェンシング・エペ)

右 : 村竹ラシッド(むらたけ らしっど: 陸上競技・110mハードル)

2024年7月31日

代表取締役副社長執行役員グループCFO 斎藤祐二

執行役員 弓崎雅夫

©Japan Airlines, All rights reserved.



APEX
WORLD CLASS



Best Wi-Fi in Eastern
Asia 2024 APEX



SKYTRAX
2024年度
World's Best
Premium Economy Class



SKYTRAX
World Airline Star
Rating
5-Star



1. 2025年3月期 第1四半期 業績概要

2. 2025年3月期 第1四半期 業績詳細

3. 参考資料

ディスクロージャー
2023年度 優良企業



証券アナリスト協会
日本証券アナリスト協会

work with Pride



2024
健康経営優良法人
Health and productivity
ホワイト500



ESG社外評価



FTSE Blossom
Japan Index



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

2024 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

Member of
Dow Jones
Sustainability Indices

Powered by the S&P Global CSA

Dow Jones Sustainability Asia
Pacific Index 2年連続選定



気候変動「A-」評価
(2023年度)



当社によるMSCIインデックスへの組み入れや、MSCIのロゴ、商標、サービスマークやインデックス名称の使用は、MSCI又はその関係会社による当社の後援、宣伝、販売促進を目的としていません。MSCIのサービスおよびデータはMSCIの独占的財産で、MSCI及びMSCIインデックスの名称とロゴは、MSCI又はその関係会社の商標又はサービスマークです。

注.(1) 当資料における表中の値は、金額は億円未満を切り捨て、比率は小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(2) LCC=Low Cost Carrier (3) ※= 役員報酬算定にESG銘柄選定評価を導入しており、対象とする銘柄のうち当社が選定されているもの



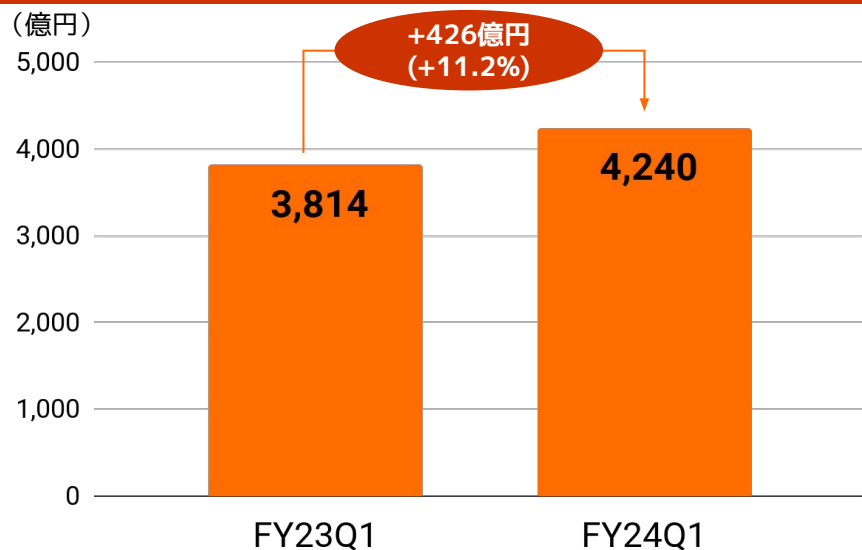
INTENTIONALLY LEFT BLANK

2025年3月期 第1四半期 連結業績概要

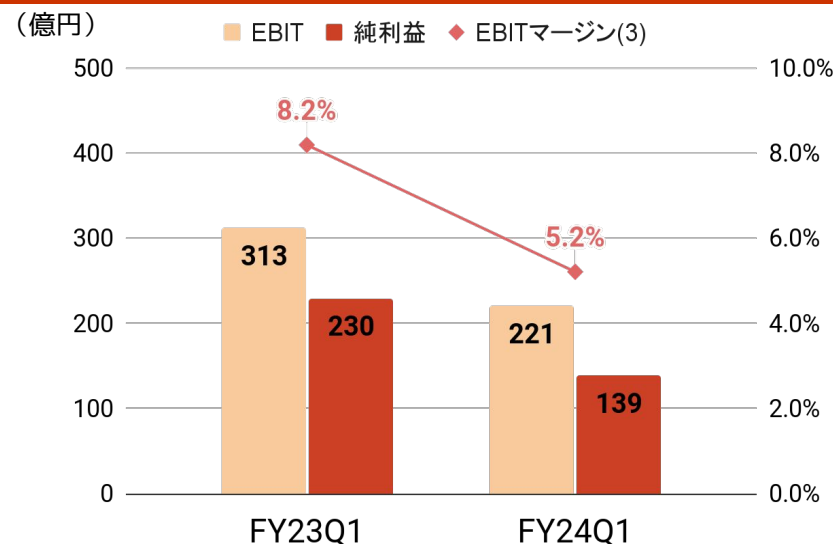


- ✓ 国際旅客は好調なインバウンドにて収入を伸ばすも国内旅客は旅客数が伸びず収入は微増
- ✓ 事業構造改革の進展による非航空事業の増益やコスト削減努力などにより利益は計画を達成
- ✓ 国内旅客は今後の旅行シーズンにおいて各種施策により低需要便を中心に需要の喚起に取り組む

売上収益



EBIT⁽¹⁾/純利益⁽²⁾



燃油・為替市況実績

	FY23Q1	FY24Q1	前年同期比
シンガポール・ケロシン (USD/bbl)	94.7	100.2	+5.8%
ドバイ原油 (USD/bbl)	78.9	85.8	+8.7%
為替 (円/USD)	134.7	153.7	+14.1%

運航諸元/ASK

	FY24Q1 (前年同期比)		
	国際線	国内線	合計
フルサービスキャリア	+3.8%	▲0.3%	+2.1%
LCC	+45.3%	+5.7%	+42.4%
合計	+9.3%	▲0.2%	+5.5%

(1) EBIT=財務・法人所得税前利益 (税引前利益から利息等の財務収支を除いたもの) (2) 純利益=親会社の所有者に帰属する四半期利益 (3) EBITマージン=EBIT/売上収益

- 2025年3月期第1四半期の売上収益は、好調なインバウンド需要などにより、前年より426億円増加し、4,240億円となりました。
- EBITにつきましては、前年より92億円下回る221億円となりました。また、同じく純損益に関しましては前年より90億円下回る139億円となりました。しかしながら、事業構造改革が進展し、非航空事業の増益やコスト削減努力の継続などにより、EBITの当初計画値は達成できております。
- また、今回の売上収益につきましては第1四半期としては破綻後最高額となっております。EBITにつきましては前年と比較いたしまして減益となっておりますが、この要因は主に人件費や各種費用の増加によるもので、これらは当初の計画にも織り込んでいたものです。

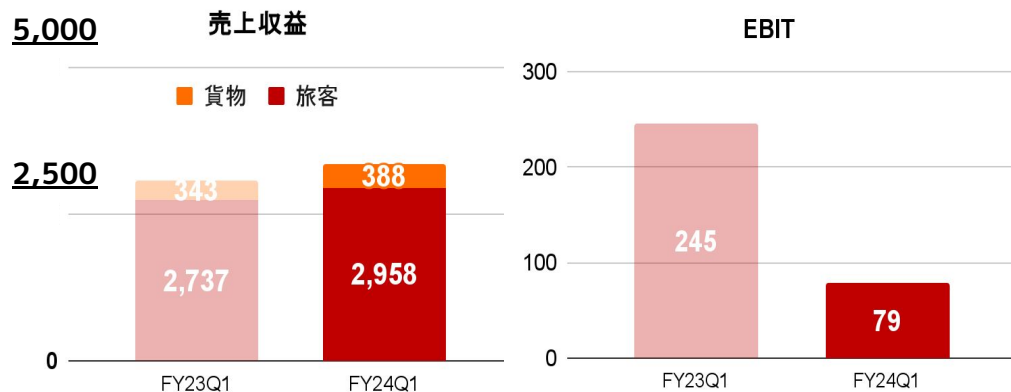
2025年3月期 第1四半期 セグメント別実績



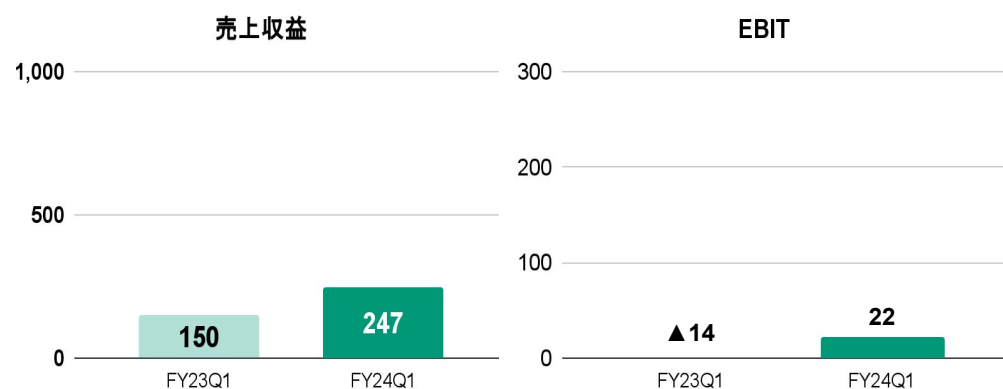
- ✓ FSCは国際旅客がけん引し、売上収益が前年から伸長
- ✓ LCCはZIPAIRが引き続き好調で黒字化、中国需要の回復によりSPRING JAPANもQ2に黒字化見込む
- ✓ マイル/金融・コマースはマイル発行数増加等により売上増、その他は受託事業がけん引しEBITが伸長

(億円)

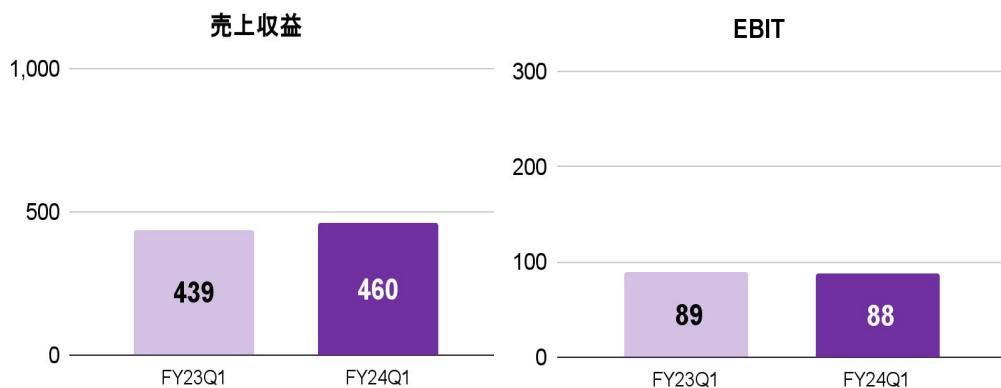
FSC (フルサービスキャリア)



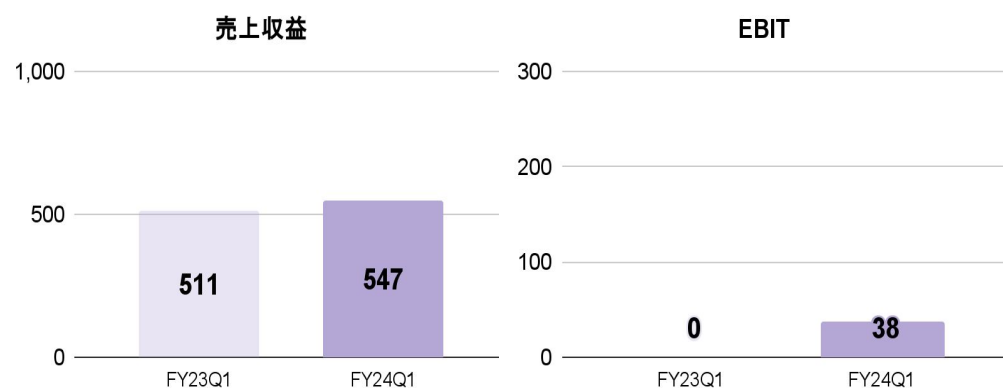
LCC



マイル/金融・コマース



その他 (旅行・受託等)



注: セグメント別実績における売上収益およびEBITはセグメント間連結消去前数値です。

- こちらのページでは、セグメント別の実績につきましてご説明します。
- 第1四半期のフルサービスキャリア事業EBITは79億円となりました。LCC事業についても需要の回復により、EBITは22億円の黒字となっております。
- マイル/金融・コマー্স事業につきましても安定的に利益を計上し、88億円のEBITを計上しております。旅行、受託等のその他のEBITも38億円の黒字となりました。

直近の当社の取り組み



フルサービスキャリア（国際旅客）

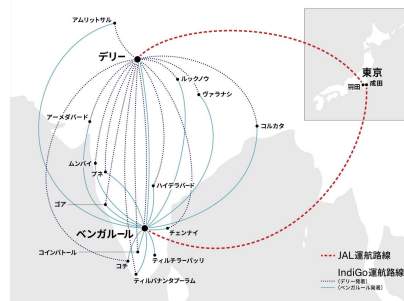


羽田＝ニューヨーク線の利便性が大幅に向上

- 新たに就航したアメリカン航空便とのコードシェアにより、羽田からニューヨークへの直行便が1日3便に拡充
- 7月からは自社運航の羽田＝ニューヨーク線全便に最新鋭機材・エアバスA350-1000型機が就航

インド国内最大手のインディゴとコードシェアへ

- 2024年冬ダイヤから、インド国内で最大のシェアを持つインディゴとコードシェアを開始することで合意
- 経済発展著しいインド国内の路線網をより一層強化していく



ガルーダ・インドネシア航空との共同事業を申請

- 魅力的な観光地が揃い、今後の経済発展も見込めるインドネシアを中心とした東南アジア路線の利便性を高めていく

リバプール・フットボール・クラブ（FC）と「オフィシャル・エアライン・パートナー」契約を締結！

- 世界で最も有名なサッカークラブのひとつであるリバプールFCとのパートナーシップ契約で、海外でのブランド認知を強化。海外発需要のさらなる獲得につなげていく

貨物郵便

貨物専用機事業を拡大、社会課題の解決へ

- 国際 貨物専用機事業
ボーイング767型貨物機が新たに香港/天津/大連に就航。海外は計6地点に拡大。DHLとの協業により成長著しい国際エクスプレス/eコマース需要へ対応
- 国内 貨物専用機事業
ヤマトHDとの協業によりA321型貨物機の運航を開始。“物流の2024年問題”に対応し持続的な物流ネットワーク構築へ



マイル/金融・コマース

「JAL Pay」がクレジットカードチャージに対応

- チャージ手段の拡充により、JALの決済サービス「JAL Pay」の利便性がさらに向上。クレジットカードチャージ導入後の1カ月当たりのチャージ金額は導入前と比べ約4.4倍
- 今後も日常生活でマイルをためる機会を拡充させていく



東京モノレール浜松町駅踊り場大型コルトン掲出広告

- こちらのページでは当社の直近の取り組みを紹介しております。

1. 2025年3月期 第1四半期 業績概要
2. 2025年3月期 第1四半期 業績詳細
3. 参考資料



INTENTIONALLY LEFT BLANK

2025年3月期 第1四半期 連結業績詳細

科目別連結経営成績



(単位：億円)	FY23Q1	FY24Q1	前年同期差	前年同期比
売上収益	3,814	4,240	+426	+11.2%
フルサービスキャリア	3,081	3,337	+255	+8.3%
国際旅客収入	1,475	1,659	+184	+12.5%
国内旅客収入	1,220	1,247	+27	+2.2%
貨物郵便収入	343	388	+44	+13.0%
その他収入	43	42	▲0	▲2.0%
LCC旅客収入	133	209	+76	+57.2%
マイル/金融・コマース、その他 (旅行・受託等)等(1)	598	693	+94	+15.7%
営業費用	3,530	4,061	+531	+15.0%
燃油費	794	945	+151	+19.0%
燃油費以外	2,736	3,116	+379	+13.9%
その他収支(2)	30	42	+12	+40.7%
EBIT	313	221	▲92	▲29.5%
EBITマージン(%)	8.2%	5.2%	▲3.0pt	-
純利益	230	139	▲90	▲39.4%
RPK(百万人キロ)	16,954	18,191	+1,237	+7.3%
ASK(百万席キロ)	22,402	23,644	+1,242	+5.5%
EBITDAマージン(%) (3)	17.9%	14.2%	▲3.7pt	-

連結業績詳細は、全社連結科目別に表したものであり、報告セグメント別の売上収益ではありません。

(1) マイル/金融・コマース、その他(旅行・受託等)等=マイル提携・コマース・旅行・受託事業収入等 (2) その他収支=航空機材売却益・その他の収入・持分法投資損益・投資収支

(3) EBITDAマージン=EBITDA/売上収益 EBITDA=EBIT+減価償却費

- 以降のページでは、2025年度3月期第1四半期の実績をご説明いたします。
- 7ページでは連結経営成績をお示ししております。

2025年3月期 第1四半期 連結業績詳細

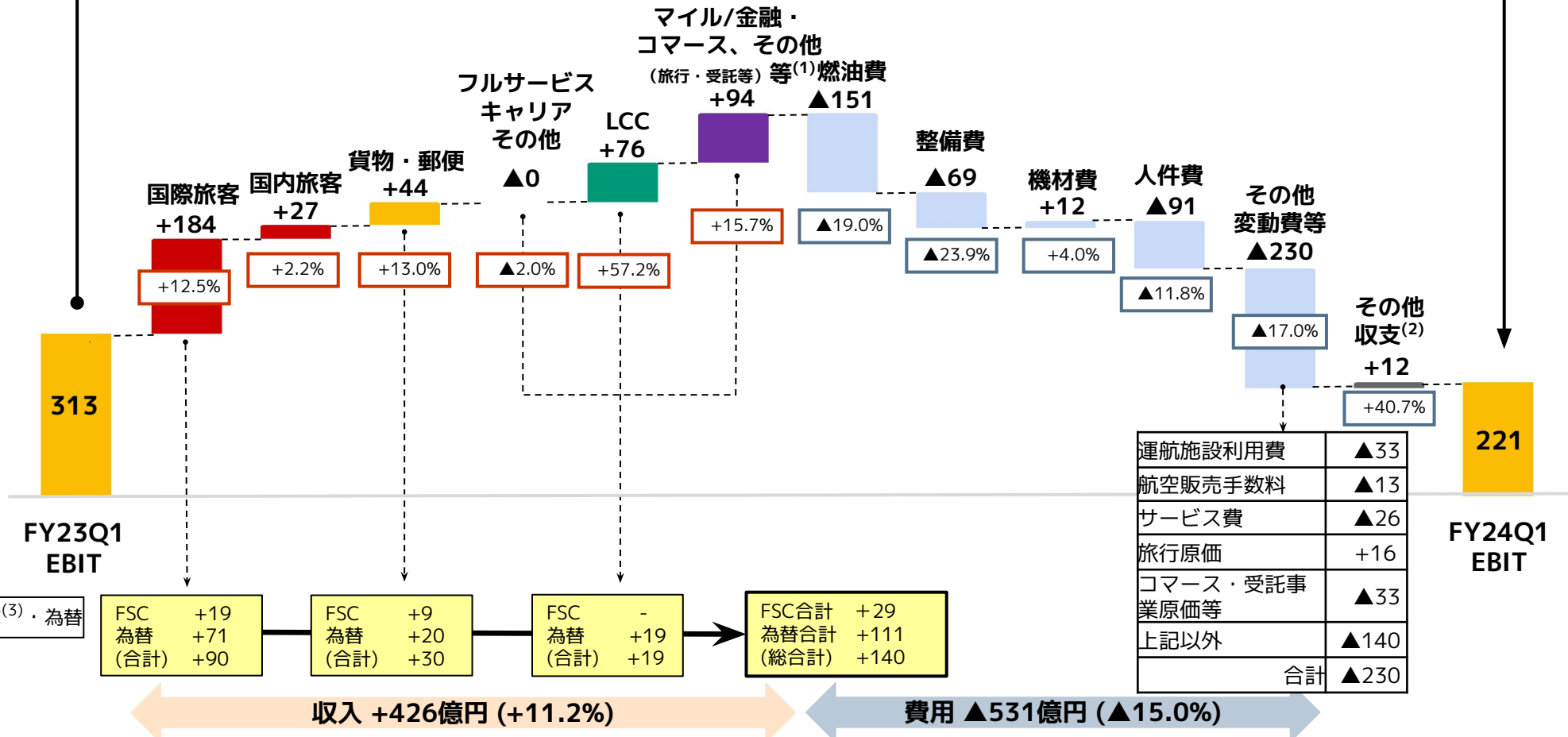
EBIT増減の科目別推移（収入／費用）



RPK前年同期比： +7.3%
ASK前年同期比： +5.5%

+は利益増（収入増・費用減）
▲は利益減（収入減・費用増）を意味する
（億円）

▲92億円



(1) マイル/金融・コマーシ、その他(旅行・受託等)等=マイル提携・コマーシ・旅行・受託事業収入等

(2) その他収支=航空機材売却益・その他の収入・持分法投資損益・投資収支 (3) FSC=Fuel Surcharge

- このページでは、前年からのEBIT差の要因を売上収益と費用にわけてお示ししております。
- 収入につきましては、国際旅客やLCC、マイル/金融・コマース、その他が大きく伸びた結果、前年より426億円の増収となりました。
- 費用につきましては、旅客数および供給増に伴い、運航規模や旅客数に連動する費用やその他各種費用の増加がみられており、供給の伸びを超える増加を示すものもありますが、これらは当初より計画に織り込んでいたものとなります。
- 以上の結果、EBITは前年より92億円の減少となっております。

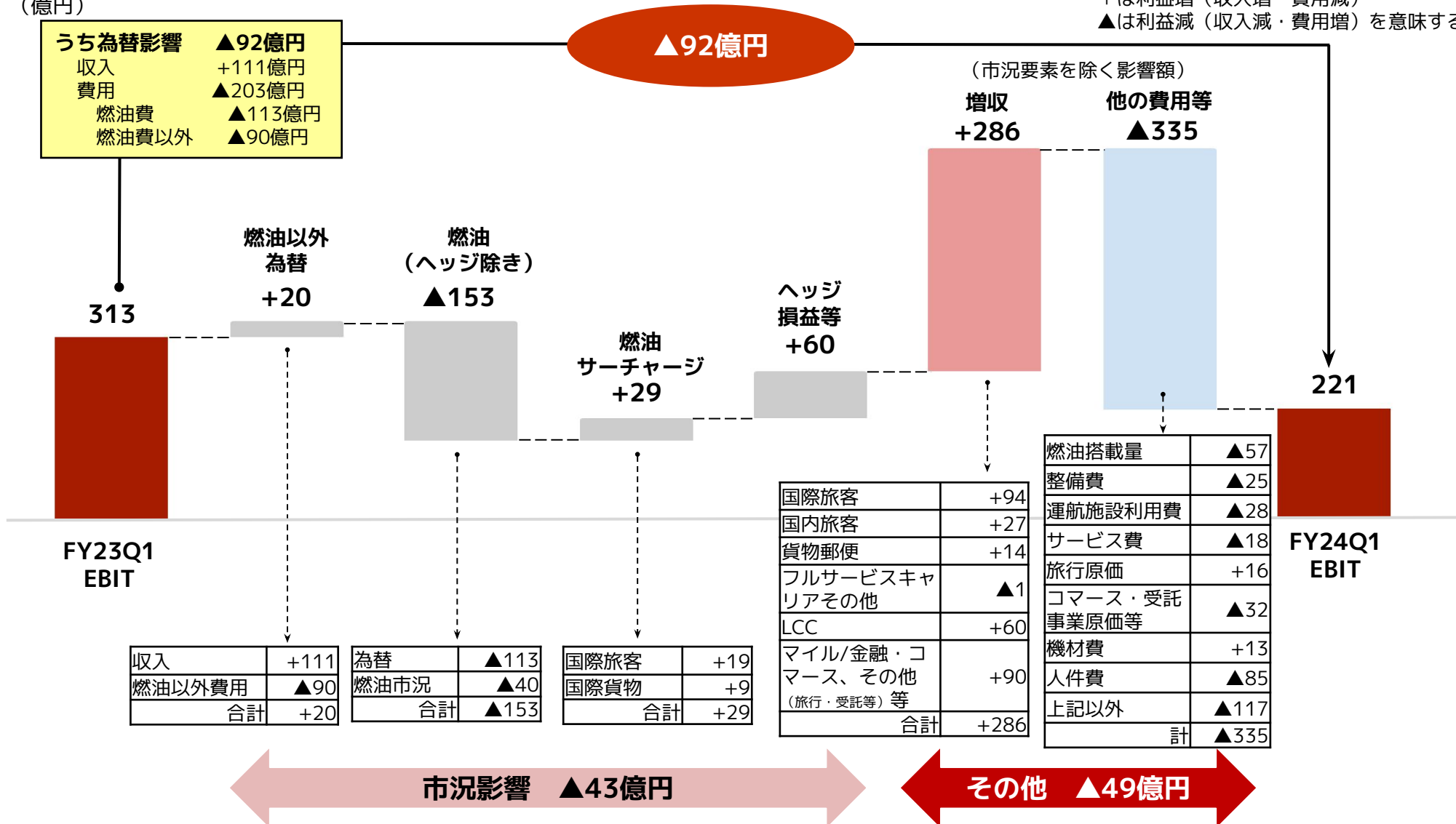
2025年3月期 第1四半期 連結業績詳細

EBIT増減の推移（市況／その他）



（億円）

+は利益増（収入増・費用減）
▲は利益減（収入減・費用増）を意味する



- こちらのページでは、EBITの差分について市況影響とその他の要因に分けてお示ししております。
- 市況の影響については、前年と比較しまして、円安の進行や燃油市況の上昇などがみられたことから、前年より43億円のEBIT押し下げ要因となっております。
- また、これら市況影響を除いた場合につきましても、各種費用の増加により49億円のEBIT押し下げ要因となりました。

2025年3月期 第1四半期 連結業績詳細

国際旅客（フルサービスキャリア）



- ✓ Q1は旺盛なインバウンド需要を取り込むと同時に高単価を維持し、増収
- ✓ 今後も回復傾向にある日本発業務需要を取り込み、高イールドを維持

国際旅客事業の状況

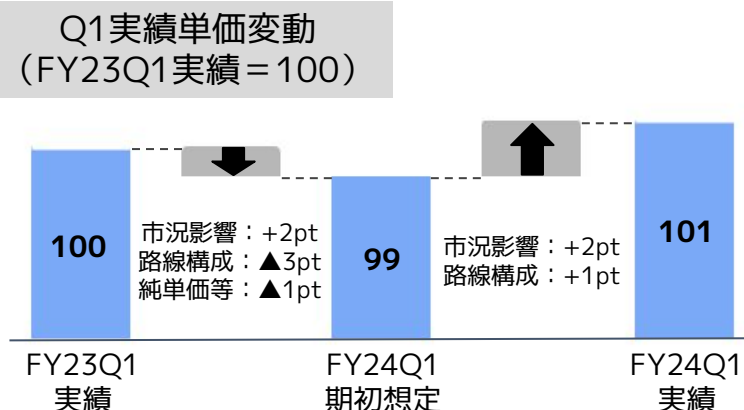
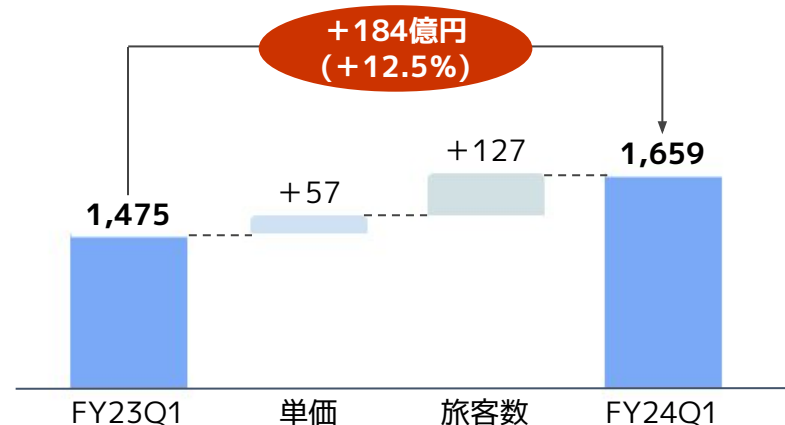
	FY23Q1	FY24Q1	前年同期比
旅客収入（億円）	1,475	1,659	+12.5%
有償旅客数（千人）	1,571	1,750	+11.4%
RPK（百万人キロ）	9,013	9,863	+9.4%
ASK（百万席キロ）	11,763	12,215	+3.8%
有償座席利用率（%）	76.6%	80.7%	+4.1pt
単価（円）(1)	93,892	94,809	+1.0%
イールド（円）(2)	16.4	16.8	+2.8%
ユニットレベニュー（円）(3)	12.5	13.6	+8.3%

(1)単価＝旅客収入/有償旅客数

(2)イールド＝旅客収入/RPK

(3)ユニットレベニュー＝旅客収入/ASK

国際旅客収入の推移（億円）



- このページではフルサービスキャリア国際旅客の実績をお示ししております。
- 国際旅客については、旺盛なインバウンド需要を取り込んだ結果、旅客数は前年から11%増加しました。一方、イールドにつきましても前年から約3%伸ばすことができ、高い水準を維持しております。結果、国際旅客収入は前年より約12%増加の1,659億円となりました。
- 今後も回復傾向にある日本発業務需要などの旺盛な需要を取り込みながら、高イールドを維持していきたいと考えております。

2025年3月期 第1四半期 連結業績詳細

国内旅客（フルサービスキャリア）



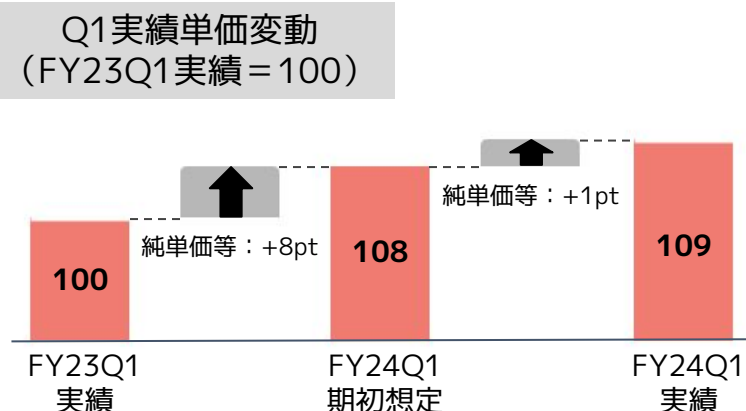
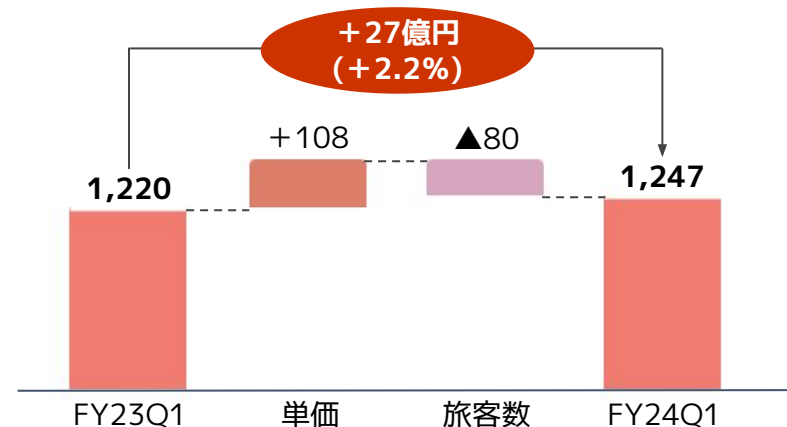
- ✓ 単価向上に取り組むも、団体旅客を中心に旅客数が伸び悩む
- ✓ 今後は各種施策により低需要便を中心に需要喚起を図りつつ、単価向上に引き続き取り組む

国内旅客事業の状況

	FY23Q1	FY24Q1	前年同期比
旅客収入（億円）	1,220	1,247	+2.2%
有償旅客数（千人）	8,589	8,019	▲6.6%
RPK（百万人キロ）	6,470	6,064	▲6.3%
ASK（百万席キロ）	8,714	8,688	▲0.3%
有償座席利用率（%）	74.2%	69.8%	▲4.5pt
単価（円）(1)	14,205	15,556	+9.5%
イールド（円）(2)	18.9	20.6	+9.1%
ユニットレベニュー（円）(3)	14.0	14.4	+2.5%

- (1) 単価=旅客収入/有償旅客数
 (2) イールド=旅客収入/RPK
 (3) ユニットレベニュー=旅客収入/ASK

国内旅客収入の推移（億円）



- このページではフルサービスキャリア国内旅客の実績をお示ししております。
- 国内旅客については、団体旅客など一部の客体について旅客数が伸び悩み、旅客数としては大変好調であった前年から約6%減少しました。一方、イールドにつきましては前年から約9%向上することができております。結果、国内旅客収入は前年より約2%増加の1,247億円となりました。
- 様々な施策により低需要便を中心に需要喚起を図りながら、単価につきましても維持向上を図ってまいりたいと考えております。

2025年3月期 第1四半期 連結業績詳細 貨物



- ✓ 国際貨物は、ボーイング767型自社貨物機を最大活用し輸送重量の増加を図るとともに、アジア発貨物を中心とした高単価貨物の獲得強化により、前年対比増収を実現
- ✓ 国内貨物は、4月からヤマトホールディングスとの協業によりA321型貨物機運航を開始。前年対比の大幅増収に寄与

国際貨物事業	FY23Q1	FY24Q1	前年同期比
貨物収入（億円）	264	293	+11.1%
有効貨物トンキロ（百万）	1,052	1,297	+23.2%
有償貨物トンキロ（百万）	631	688	+8.9%
貨物輸送重量（千トン）	105	126	+19.7%
重量単価（円/kg）	250	232	▲7.2%

国内貨物事業	FY23Q1	FY24Q1	前年同期比
貨物収入（億円）	49	65	+33.1%
有効貨物トンキロ（百万）	400	410	+2.5%
有償貨物トンキロ（百万）	69	68	▲1.7%
貨物輸送重量（千トン）	73	72	▲0.9%
重量単価（円/kg）	67	90	+34.3%

- こちらのページでは、貨物事業の業績をお示しております。
- 国際貨物は、ボーイング767フレイターの運航により輸送重量、貨物収入ともに前年より増加しております。また、ヤマトホールディングス様との協業によりA321貨物機の運航を開始することで、国内貨物収入についても増収となっております。

2025年3月期 第1四半期 連結業績詳細

LCC



✓ ZIPAIRは引き続き好調。SPRING JAPANは8月以降、需要の大きい北京・上海にてJALとのコードシェアを開始、通期で黒字化を見込む

ZIPAIR 	FY23Q1	FY24Q1	前年同期比
旅客収入（億円）	115	172	+49.2%
有償旅客数（千人）	244	332	+35.7%
RPK（百万人キロ）	1,338	1,902	+42.1%
ASK（百万席キロ）	1,718	2,342	+36.3%
有償座席利用率（%）	77.9%	81.2%	+3.3pt
単価（円）(1)	47,306	51,983	+9.9%
イールド（円）(2)	8.7	9.1	+4.9%
ユニットレベニュー（円）(3)	6.7	7.4	+9.4%

SPRING JAPAN 	FY23Q1	FY24Q1	前年同期比
旅客収入（億円）	17	37	+109.9%
有償旅客数（千人）	146	259	+76.6%
RPK（百万人キロ）	131	323	+145.1%
ASK（百万席キロ）	206	398	+93.1%
有償座席利用率（%）	64.0%	81.2%	+17.2pt
単価（円）(1)	12,020	14,291	+18.9%
イールド（円）(2)	13.4	11.5	▲14.4%
ユニットレベニュー（円）(3)	8.6	9.3	+8.7%

(1)単価=旅客収入/有償旅客数 (2)イールド=旅客収入/RPK (3)ユニットレベニュー=旅客収入/ASK

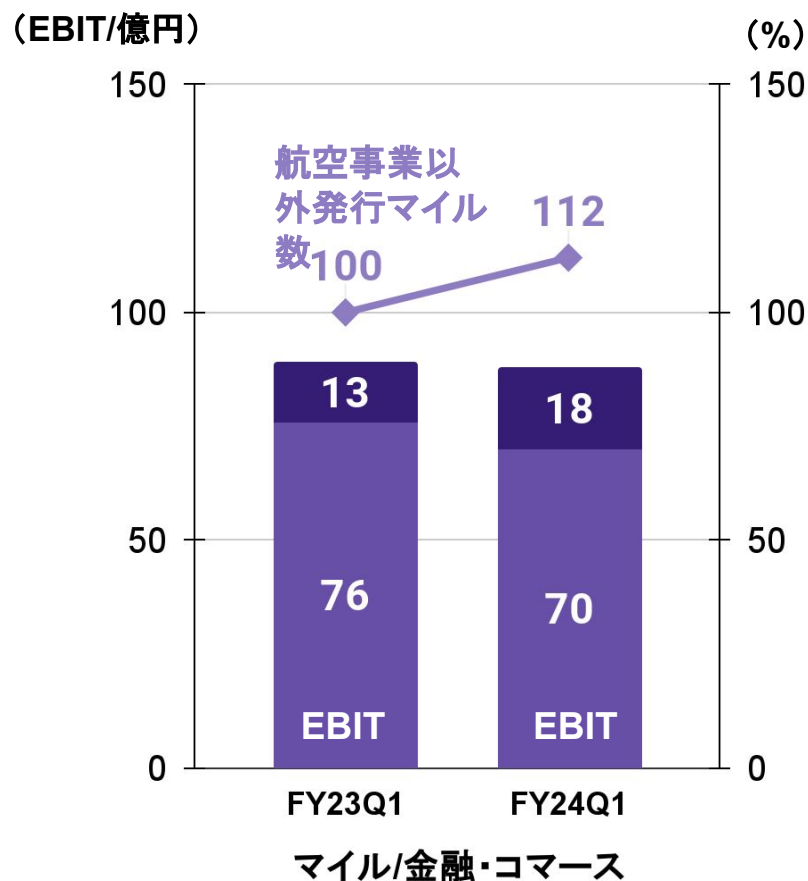
- このページでは、LCCの実績をお示ししております。
- ZIPAIRは、前年度より旅客数、収入ともに大きく伸ばしており、順調に成長を続けております。
- また、スプリングジャパンにつきましても、前年度より旅客数、収入ともに伸ばしております。今後は需要の大きい北京、上海線のコードシェア開始などにより、もう一段の成長を果たし、通期での黒字を期待しております。

2025年3月期 第1四半期 連結業績詳細

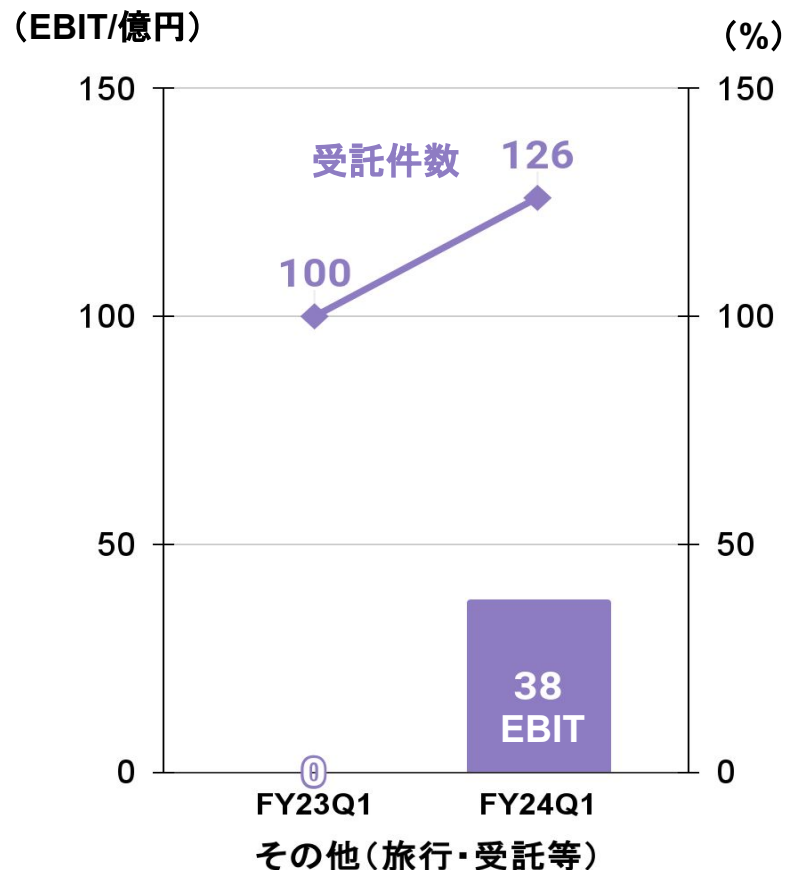
マイル/金融・コマー্স、その他（旅行・受託等）



- ✓ マイル/金融・コマー্স事業では、航空事業以外での発行マイル数を伸ばし、安定的に利益を計上
- ✓ その他事業では、グランドハンドリング受託件数と単価が前年に比べて増加、利益を伸長



◆ 航空事業以外での発行マイル数 (FY23Q1=100)
 ■ コマー্স 事業利益 ■ マイル/金融 事業利益



◆ 受託件数 (FY23Q1=100)
 ■ 利益

- このページでは、マイル/金融・コマー্স、その他事業の実績をお示ししております。
- マイル/金融・コマー্স事業においては順調にマイル発行数を伸ばしており、安定的にEBITを計上しております。
- また、その他の事業につきましても、グランドハンドリング受託件数及びその単価を前年より増加させることでEBITを伸ばしております。

2025年3月期 第1四半期 連結業績詳細 費用詳細



主要営業費用項目

(単位：億円)	FY23Q1	FY24Q1	前年同期差	前年同期比
燃油費	794	945	+151	+19.0%
運航施設利用費	173	206	+33	+19.4%
整備費	292	362	+69	+23.9%
航空販売手数料	62	75	+13	+21.9%
サービス費(1)	104	130	+26	+25.2%
他変動費(2)	489	544	+55	+11.3%
機材費	311	299	▲12	▲4.0%
人件費	776	868	+91	+11.8%
その他の費用	526	628	+101	+19.4%
営業費用合計	3,530	4,061	+531	+15.0%

FSC (フルサービスキャリア) ユニットプロフィット

(単位：円)	FY23Q1	FY24Q1	前年同期差
UR (ユニットレベニュー) (3)	13.1	13.9	+0.7
UC (ユニットコスト) (4)	12.1	13.7	+1.5
UP (ユニットプロフィット) (5)	0.9	0.1	▲0.8

(1) サービス費=機内・ラウンジ・貨物などのサービスに関わる費用 (2) 他変動費=旅行・マイル提携・コマース・受託事業原価 など

(3) ユニットレベニュー= 旅客収入 ÷ ASK (4) ユニットコスト= (営業費用-旅客収入以外の収入) ÷ ASK (5) ユニットプロフィット=(ユニットレベニュー) - (ユニットコスト)

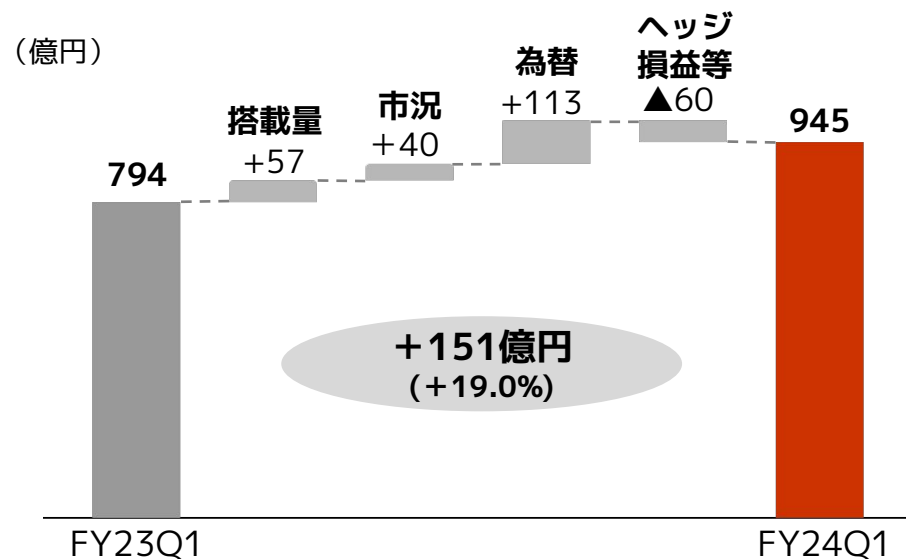
- このページでは、費用の詳細とユニットプロフィットについてご説明します。
- 円安の進行や燃油市況の上昇といった市況影響に加え、運航規模や旅客数に連動する費用や人件費をはじめとする各種費用が増加した結果、営業費用合計は前年より531億円増加し、4,061億円となりました。
- ユニットプロフィットにつきましては、ユニットレベニュー、ユニットコストがともに上昇し、0.1となりました。ユニットコストは計画よりも低く抑えられております。今後はユニットレベニューの改善を目指してまいります。

2025年3月期 第1四半期 連結業績詳細

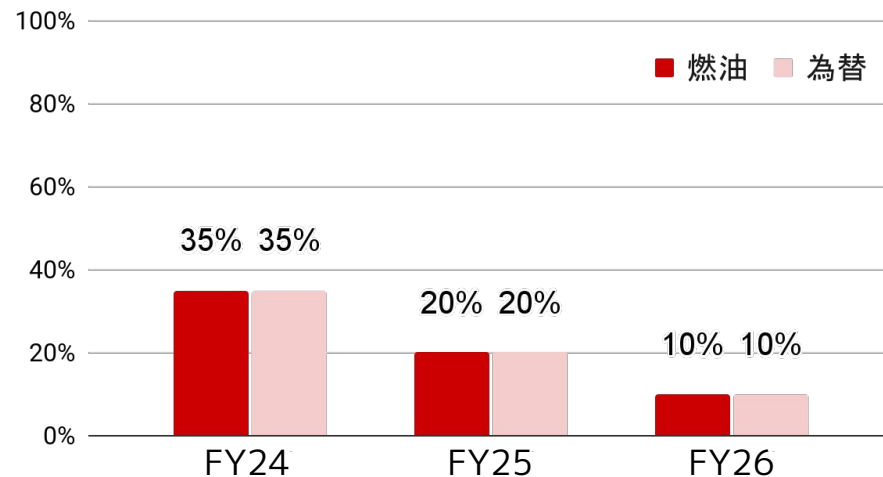
燃油費



燃油費増減の推移



燃油費に対する年度別ヘッジ概況 (2024年6月末時点)



燃油ヘッジ

燃油使用量



- 国内線使用量を対象にヘッジを実施、燃油市況変動に対応
- 国際線使用量は燃油サーチャージ収受にて対応

為替ヘッジ

外貨費用



- 国内線使用量の燃油費を対象にヘッジ実施、燃油費における為替市況変動に対応
- 足許では海外発需要の高まりにより、外貨収入が燃油費を除く外貨費用を上回る

- このページでは、燃油費及びヘッジについてご説明します。
- 第1四半期の燃油費は前年から151億円増加の945億円でした。
- 右上のグラフは現在のヘッジの進捗状況をお示ししております。また、下段にはご参考までに当社の燃油及び為替のヘッジ量の概念図をお示ししております。

2025年3月期 第1四半期 連結業績詳細

財務状況・キャッシュフロー状況



BS ✓ 格付評価上の自己資本比率38.9%、ネットD/Eレシオ0倍と健全な水準を維持

CF ✓ 投資を拡大する中でフリーキャッシュフローは黒字を維持しつつ、将来の成長投資に向けて、計画的に資金調達を実施

連結財政状態計算書	FY23期末	FY24Q1末	前期末差
総資産	26,492	27,815	+1,323
現金及び現金同等物	7,138	8,193	+1,055
有利子負債	8,872	9,488	+615
1年内返済	1,069	1,112	+43
自己資本(1)	9,099	9,074	▲24
自己資本比率 (%) (2)(5)	34.3% (41.0%)	32.6% (38.9%)	▲1.7pt (▲2.0pt)
D/Eレシオ (倍) (3)	1.0x	1.0x	+0.1x
ネットD/Eレシオ (倍) (4)(5)	0.2x (▲0.0x)	0.1x (▲0.0x)	▲0.0x (▲0.0x)

(億円)

連結キャッシュフロー計算書	FY23Q1	FY24Q1	前年同期差
営業キャッシュフロー	1,236	1,060	▲176
減価償却費	369	381	+12
投資キャッシュフロー	▲355	▲389	▲33
投資・出資額	▲372	▲424	▲52
フリーキャッシュフロー (6)	880	670	▲209
財務キャッシュフロー	▲172	341	+514
キャッシュフロー合計 (7)	708	1,012	+304
EBITDA (8)	683	603	▲80

- (1) 自己資本=親会社の所有者に帰属する持分
- (2) 自己資本比率=親会社所有者帰属持分比率
- (3) D/Eレシオ=有利子負債/自己資本
- (4) ネットD/Eレシオ=(有利子負債－現金および現金同等物)/自己資本
- (5) ()内の数字は、ハイブリッド・ファイナンスを加味した格付評価上の数値
- (6) フリーキャッシュフロー=営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー
- (7) キャッシュフロー合計=営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー+財務キャッシュフロー
- (8) EBITDA=EBIT+減価償却費

- 最後に、バランスシートとキャッシュフローについてこのページで説明いたします。
- 2024年6月末の格付評価上の自己資本比率は38.9%、同じくネットDEレシオは0倍と、引き続き健全な水準を維持しております。
- また、6月末時点での手元現預金は3月末時点より1,055億円増えて8,193億円となりました。
- キャッシュフローですが、営業キャッシュフローは1,060億円のキャッシュインフローとなりました。また、投資を拡大している中、フリーキャッシュフローも670億円の黒字となり、高い水準を維持しております。
- 18ページ以降は参考資料です。

1. 2025年3月期 第1四半期 業績概要
2. 2025年3月期 第1四半期 業績詳細
3. **参考資料**



INTENTIONALLY LEFT BLANK

参考資料

国際線大路別実績（フルサービスキャリア）



旅客収入		
(単位:%)	FY24Q1 構成比	前年同期比
米大陸線	40%	+23.1%
欧州線	18%	+21.8%
アジア・オセアニア線	29%	+1.1%
中国線	6%	▲10.6%
ハワイ・グアム線	7%	+14.1%
全路線	100%	+12.6%

ASK		
(単位:百万席キロ)	FY24Q1	前年同期比
米大陸線	4,518	+2.7%
欧州線	2,026	+17.9%
アジア・オセアニア線	3,943	▲4.4%
中国線	571	+3.3%
ハワイ・グアム線	1,156	+19.7%
全路線	12,215	+3.8%

RPK		
(単位:百万人キロ)	FY24Q1	前年同期比
米大陸線	3,876	+6.1%
欧州線	1,624	+27.7%
アジア・オセアニア線	3,083	▲0.7%
中国線	412	+49.6%
ハワイ・グアム線	866	+22.6%
全路線	9,863	+9.4%

有償旅客数		
(単位:千人)	FY24Q1	前年同期比
米大陸線	413	+5.2%
欧州線	176	+30.0%
アジア・オセアニア線	797	+1.2%
中国線	214	+54.4%
ハワイ・グアム線	147	+28.6%
全路線	1,750	+11.4%

有償座席利用率		
(単位:%)	FY24Q1	FY23Q1
米大陸線	85.8%	83.0%
欧州線	80.2%	74.0%
アジア・オセアニア線	78.2%	75.3%
中国線	72.2%	49.8%
ハワイ・グアム線	75.0%	73.2%
全路線	80.7%	76.6%

参考資料

航空機一覧



			前期末 2024/3/31			当期末 2024/6/30			増減
			所有	リース	合計	所有	リース	合計	
フルサービスキャリア	大型機	Airbus A350-1000	3	0	3	3	0	3	0
		Airbus A350-900	11	4	15	11	4	15	0
		Boeing 777-300ER	13	0	13	13	0	13	0
		大型機 小計	27	4	31	27	4	31	0
	中型機	Boeing 787-9	19	3	22	19	3	22	0
		Boeing 787-8	23	0	23	23	0	23	0
		Boeing 767-300ER	16	9	25	16	9	25	0
		中型機 小計	58	12	70	58	12	70	0
	小型機	Boeing 737-800	47	9	56	47	9	56	0
		小型機 小計	47	9	56	47	9	56	0
	リージョナル機	Embraer 170 / Embraer 190	32	0	32	32	0	32	0
		De Havilland DHC-8-400CC	5	0	5	5	0	5	0
		ATR42-600 / ATR72-600	14	1	15	14	1	15	0
		リージョナル機 小計	51	1	52	51	1	52	0
	貨物機	Airbus A321-200	0	2	2	0	3	3	+1
		Boeing 767-300ER	0	2	2	0	2	2	0
		貨物機 小計	0	4	4	0	5	5	+1
フルサービスキャリア 合計			183	30	213	183	31	214	+1
LCC	Boeing 787-8		8	0	8	8	0	8	0
	Boeing 737-800		0	6	6	0	6	6	0
	LCC合計		8	6	14	8	6	14	0
総計			191	36	227	191	37	228	+1

参考資料

2025年3月期

セグメント別通期連結業績予想

※FY24通期予想は2024年5月2日発表 決算説明会資料より再掲



(単位：億円)	FY24		FY24
	Q1単独	前年同期比	通期予想
売上収益	4,240	+11.2%	19,300
フルサービスキャリア	3,346	+8.6%	15,030
国際旅客収入	1,661	+12.6%	7,100
国内旅客収入	1,247	+2.2%	5,980
貨物郵便収入	388	+13.0%	1,670
その他収入	49	+19.3%	280
LCC	247	+64.6%	1,150
マイル/金融・コマー্স	460	+4.8%	2,230
その他（旅行・受託等）	547	+7.1%	2,900
連結調整額	▲361	-	▲2,010
営業費用	4,061	+15.0%	17,750
燃油費	945	+19.0%	4,350
燃油費以外	3,116	+13.9%	13,400
その他収支	42	+40.7%	150
EBIT	221	▲29.5%	1,700
フルサービスキャリア	79	▲67.8%	1,100
LCC	22	-	130
マイル/金融・コマー্স	88	▲0.9%	440
その他（旅行・受託等）	38	-	120
連結調整額	▲6	-	▲90
純利益	139	▲39.4%	1,000

燃油・為替の市況変動によるQ2以降の利益影響 (ヘッジ、燃油サーチャージ等込み)						
(億円)	燃油市況 (USD/bbl)	ドバイ 原油	70ドル	80ドル	90ドル	100ドル
		シンガポール・ ケロシン	90ドル	100ドル	110ドル	120ドル
為替 (円/USD)	135円		+220	+170	+120	+70
	145円		+150	+80	予想前提 ±0	▲50
	155円		+70	+20	▲30	▲120
	165円		+30	▲30	▲100	▲200

2025年3月期 通期連結業績予想

国際・国内旅客事業（フルサービスキャリア）



国際旅客事業	CY19 (4)	FY23	FY24 予想	CY19比 (%)			FY23比 (%)		
				通期	上期	下期	通期	上期	下期
旅客収入(億円)	5,312	6,223	7,100	+33.6%	+27.1%	+40.5%	+14.1%	+10.4%	+17.9%
有償旅客数(千人)	9,796	6,628	7,459	▲23.9%	▲25.0%	▲22.7%	+12.5%	+12.7%	+12.4%
RPK(百万人キロ)	48,822	37,201	40,689	▲16.7%	▲17.4%	▲15.9%	+9.4%	+8.5%	+10.3%
ASK(百万席キロ)	55,177	47,328	49,997	▲9.4%	▲10.3%	▲8.5%	+5.6%	+5.2%	+6.1%
有償座席利用率(%)	88.5%	78.6%	81.4%	▲7.1pt	▲7.1pt	▲7.1pt	+2.8pt	+2.4pt	+3.1pt
単価(円)(1)	54,229	93,897	95,281	+75.7%	+69.8%	+81.8%	+1.5%	▲1.8%	+4.9%
イールド(円)(2)	10.9	16.7	17.5	+60.5%	+54.3%	+67.0%	+4.4%	+2.0%	+6.9%
ユニットレベニュー(円)(3)	9.6	13.1	14.2	+47.7%	+42.0%	+53.6%	+8.1%	+5.1%	+11.1%

国内旅客事業	CY19 (4)	FY23	FY24 予想	CY19比 (%)			FY23比 (%)		
				通期	上期	下期	通期	上期	下期
旅客収入(億円)	5,542	5,508	5,980	+7.9%	+7.1%	+8.8%	+8.6%	+11.2%	+5.9%
有償旅客数(千人)	38,368	35,109	36,129	▲5.8%	▲5.6%	▲6.1%	+2.9%	+4.6%	+1.2%
RPK(百万人キロ)	29,070	26,771	27,384	▲5.8%	▲5.2%	▲6.4%	+2.3%	+4.7%	▲0.1%
ASK(百万席キロ)	36,539	35,184	35,457	▲3.0%	▲2.5%	▲3.5%	+0.8%	+1.7%	▲0.1%
有償座席利用率(%)	79.6%	76.1%	77.2%	▲2.3pt	▲2.3pt	▲2.4pt	+1.1pt	+2.3pt	▲0.0pt
単価(円)(1)	14,445	15,690	16,574	+14.7%	+13.4%	+16.1%	+5.6%	+6.4%	+4.8%
イールド(円)(2)	19.1	20.6	21.9	+14.7%	+13.0%	+16.4%	+6.3%	+6.2%	+6.3%
ユニットレベニュー(円)(3)	15.2	15.7	16.9	+11.3%	+9.8%	+12.9%	+7.9%	+9.5%	+6.2%

(1) 単価=旅客収入/有償旅客数 (2) イールド=旅客収入/RPK (3) ユニットレベニュー=旅客収入/ASK
 (4) CY2019=2019年1月～12月。ただし、1月～3月は社内管理上の簡便的手法で試算したIFRS値を使用。

明日の空へ、日本の翼



JAPAN AIRLINES

当資料に関するお問い合わせ先

日本航空株式会社

財務・経理本部 財務部

本資料には、日本航空株式会社（以下「当社」といいます）及びそのグループ会社（以下当社とあわせて「当社グループ」といいます）に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、当社が当該資料作成時点（又はそこに別途明記された時点）において入手した情報に基づく、当該時点における予測等を基礎として作成されています。これらの記述のためには、一定の前提・仮定を使用しています。これらの記述又は前提・仮定は当社経営陣の判断ないし主観的な予想を含むものであり、様々なリスク及び不確実性により、将来において不正確であることが判明し、あるいは将来において実現しないことがあります。したがって、当社グループの実際の業績、経営成績、財政状態等については、当社の予想と異なる結果となる可能性があります。かかるリスク及び不確実性には、日本その他の国・地域における経済社会状況、燃油費の高騰、日本円と米ドルその他外貨との為替レートの変動、テロ事件及び戦争、伝染病その他航空事業を取り巻く様々なリスクが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

本資料に掲載されている将来情報に関する記述は、上記のとおり当該資料の作成時点（又はそこに別途明記された時点）のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

本資料に掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、いかなる有価証券、金融商品又は取引についての募集、投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

本資料への当社グループに関する情報の掲載に当たっては万全を期しておりますが、監査を経ていない財務情報も含まれており、その内容の正確性、完全性、公正性及び確実性を保証するものではありません。

従いまして、本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。

なお、本資料の著作権やその他本資料にかかる一切の権利は日本航空株式会社に属します。